

## 第 25 回砥川流域協議会

日時：平成 25 年 11 月 26 日（火） 午後 6：30 分から午後 8 時 30 分

場所：下諏訪町商工会議所 3 階大会議室

### 1. 主な事項等

- ①座長の改選を行い、五味座長が選出されました。
- ②砥川の河川改修工事について、富士見橋の架替工事に平成 25 年度から着手することの説明がありました。
- ③雨量流量観測について、平成 25 年 8 月～9 月の降雨データの説明がありました。
- ④協議会の今後のあり方について討議しました。

### 2. 討議

開 会

所長挨拶

自己紹介

座長改選

座長挨拶

議 事

(1) 砥川の河川改修工事について事務局より説明（配布資料とパワーポイント利用）

(2) 雨量及び流量の観測結果について事務局より説明（配布資料とパワーポイント利用）

(3) 協議会の今後のあり方について討議

- ・提言に対して、実際の事業執行状況を検証し、一定の方向ができれば新たな提言としてまとめていく。

質疑応答以下、下記のとおり

座 長)

事務局より 2 つのテーマについて説明を受けました質疑に入りたいと思います。

会 員)

今まで河川改修と鷹野橋の架替を実施してどのくらいの費用がかかったのかをお聞きしたい。

事務局)

平成 25 年度までで約 20 億円です。

会 員)

富士見橋の架替をすると、最高どのくらいの流下能力が出るのでしょうか。

事務局

新しい富士見橋になったときには230tの計画流量に対して232t流れる計画になっています。

会 員)

50年確率に対応する河川改修を10年でやるという約束になっているわけですが、実質的に10年で河川改修ができるのか。延びるとしたらどの位のびるのか教えてもらいたい。

事務局)

これからの改修の予定でございますけども、28年目標ということで進めております。ただ、当初想定していなかったこと等でできておまして少し遅れてきております。また、国の補助事業でやってきておりますので、優先的に予算をまわさなければならぬところが出てきたこともありまして、費用面でも多少遅れていることもございます。平成28年度完成できるよう予算要望はしていきます。仮に遅れるようなことがありましても、流下能力確保は最優先でやっていきたいと考えております。

会 員)

これは知事との約束ですから、ぜひとも最善を尽くして努力してもらいたいと思います。

会 員)

水文学は経験則から成り立っているもので、川というものは100あれば100全て違うわけで、これを1つの公式に当てはめるのは無理で、基本高水というのも一つの計算式であると思う。私が一番考えるのは、地元の人たちに雨が降った時の雨量と出水の関係をよく知ってもらい、自主的に避難するよう意識を持って貰うことが大切だと思います。行政も「川の水位がどの位になったら危ないぞ」というような、わかりやすい目安をつくって住民に説明すべきであると思う。住民が自分の判断で逃げられるようにし、家は流されても命は助かるようにすべきである。

座 長)

水文の流量や雨量・観測の問題等実際に避難をどうするかということを一統的に話されました。こういう意見が出たということで記録させてもらうことでいいでしょうか。

会 員)

先日の現地見学の時に、〇〇さん宅の前のところをみている。河川はどんどん開発されれば生態系は狂っていく。砥川を全部改修すると思うんですが、生態系を戻すには何十年

とかかる。だから、せめて残したいところは残すということがいいと思うが。既存の護岸を残して様子を見ながら、不都合であれば軌道修正していくっていう方法をとっていただければありがたいと思う。

座 長)

今の意見は鷹野橋の下流左岸についてであります。既存の護岸を残していったらどうかという意見がありました。

会 員)

既存の護岸と、改修が終わった部分と見比べたらどうかと、5年10年たったらどうなるのか、維持管理していけばこうなるけど維持管理できなければどうなるのかということ見ていったらということです。

座 長)

建設事務所の方でも意見があると思います。現時点でどのように考えているのかを答えていただきたい。

事務局)

鷹野橋下流の改修の方法についてですが、残せる部分は残していった方が経済的です。で、やれるところはそのようにやっていきたいと思っていますが、この場所については、現状の護岸位置で断面を確保するには深く掘らないといけない。現状の護岸を残して改修を進めることはできないので、積み替えが必要と考えています。

会 員)

下流左岸の護岸整備についてどうしてやっていないのか教えてほしい。早く整備を進めるべきだと思っています。

事務局)

現在鷹野橋下流左岸が残っている理由は、用水の取り入れ・用水路が堤防法尻にあり、護岸整備・河床掘削するときに取り入れ口が今のままでは機能しなくなるため、機能回復する必要があります。あわせて用水路の付け替えも必要となってきますが、水利権者と現在調整しているところであります。時間がかかっているのは、住宅密集地であり用水路付け替えの用地が確保できていないためです。河川について基本的なことですが、堤防について左右岸同じ強度にしておかないと、片岸にしわよせがいきますので、兩岸とも同じ規格で整備するのが原則と考えています。

会 員)

年間平均約300t近い土砂量を流出する砥川では、その土砂を途中で堆積させることなくできるだけ河口まで送り出すには、雨樋型の河道構造が最適と考えます。実際に私は何年かやってきて結果としてそう思います。雨樋型にすると、わずかな水量でも非常に大

きな掃流力が生じる。角形ではそのような掃流力が発生しません。わたしはずっと小さい頃から見ている、河川改修をしても河道整備をしていないと思っています。やがてヨシが生える。そして土砂がたまる。そしてどんどん川が埋まっていく。雨樋型にすると基礎根入れ部分が水路から離れているために乱流が起きなくなり、護岸の崩落する危険性がなくなる。水流を阻害する雑木、アカシア・シラカバ・ヤナギ等は取り除くことでなくなり流れはよくなる。水と調和した河川の整備が促進される。とにかく河床整理ということを中心にしていただきたい。

座 長)

維持管理・河床整備の話は、「これからの」のところで話して頂ければいいと思います。

水文から河川整備の話を行ったりきたりしていますが、何か他の側面から意見や質問がありましたら出して頂ければと思います。

会 員)

護岸裏に住んでいる方に、護岸が整備されてきた状況の中で、どんな意見をお持ちかお聞きしたい。

座 長)

意見を伺ってみましょう。工事が進んだ場所で近くにお住みで切実だった方にどういう風な感想をお持ちか、また評価しているかお願いしたい。

会 員)

自然相手だし人間がやったことなので完璧と言うことはないが、自分としては水害に対して強い状態になったと思っており、そのこと自体は大変ありがたいことだと思っている。草がもうちょっと生えていけばいいということがないわけじゃないけれども、大雨が降ったときにいつ崩れるかわからないという不安を感じていたので改修をしてもらってよかったと思っています。常に堤防をきれいにしていれば水害の危険は減ると思うが、全部の区間を日常的に整備するのは現実的に難しいし、実際無理である。プラスマイナスはあるにせよ人命ということを考えると全部整備すべきと考えている。

会 員)

日頃感じていることは、温暖化が進み、自分の経験上初めてだというようなことが起こってくるのではないかと考えています。自分の住んでいるところを考えると、上流から医王渡橋くらいまでは川の状態があまり変化していないと感じているが、医王渡橋から河口の間を見たときに、勾配が緩いため土砂が溜まりやすい。一雨毎に川の状態が変わり、河川敷はすぐ埋まってしまい河床が高くなり、夏になると草が茂ってしまう状態が続いている。河川内の浚渫をやってくれないかなと思っています。

座 長)

これを討議して、一つの意見として意志統一するのは大変難しいと思いますが、こうい

う意見が出たということをお互いに考えて前に進みたいと思います。河川改修と水文の関係については時間との関係があるのでここまででよろしいでしょうか。

会 員)

土砂の流出が多く、河床があがってしまい心配であるとの発言があった。私も同じ意見である。なぜ土砂流出が多いかというと、砥川はもともと土砂流出が多い地形・地質であるからだと思う。特に砥沢流域で全般に土砂が堆積している。それが雨が降ると流れてくる。砥川の upstream はいくつもの堰堤をつくって土砂の流出防止工事がなされているが、ほとんどが埋まっている。堰堤にたまった土砂の除去をして、新たに発生した土砂を止めるような対策を継続的に取っていかないと土砂流出はいつまでも続くと思っている。

したがって、1つは護岸を整備（修理）するという事、もう1つは堰堤に溜まった土砂を除去して新たに発生した土砂をためることを考えなければいけないと思う。更にいえば、砂防堰堤をつくる必要があると考えている。住民の安全確保を視野に入れて検討をお願いしたい。

河川改修について、砥川は砂利の川と言っていいと思う。大水が出たり、流れが変わったりすると（護岸の）根入れの部分がどんどん掘られる。所々に沈床をいれて根入れが洗われられないような対策が必要であると思う。また、水位が上がって溢水した場合、砥川の堤防は砂利でできているため、一気に決壊する危険があるので、その辺も配慮して最善の対策を検討して貰いたいと思う。

座 長)

今、河床の話と上流の土砂流出の話と両方含めていわれた。いずれも難題だと思いますが、そういう意見は誰が考えてもあると思います。

会 員)

砥川の中流域は、以前は「ながれ」といわれたくらい氾濫している地域であります。砥川はあばれ川であり、先人がなんとかしなければいけないと水路にしたわけですから、しっかりした水路にしてもらいたい。そういったことを考えて工事して貰いたい。

会 員)

わたしなりにこれからの砥川を維持して洪水をうまく流すためにどうしたらいいかということを考えてみました。

1点目は、治山を治水計画に入れるということです。流出域での対策を重視して、流域自体の乱開発を規制する。そして、治山を進めること。従来の計画において、治山の効果を適正に位置づけてこなかったと思っている。河畔林は治水に効果があるということも認めてもらいたい。

2点目は、今の計画は全部堤防にする計画である。これは洪水を河道内に閉じ込める治水方式であり、このような治水が進めば、超過洪水による水害の危険性が増大する。一方では、これらの問題に対して総合治水対策、超過洪水対策、流域治水が答申され、1997年に河川法が改正され、治水・利水に加えて河川の環境の整備・保全を明確に位置づけ

た。整備計画は地方公共団体の長が、住民の意見を反映する手続きを導入している。しかし、個々の現場では、旧態依然の方法で改修されているのが多いのではないかと思う。河川環境を考えたとき、全部コンクリートにして連続堤防にして、その後60tの流域対策もそれなりきの事をするのか。私はそういう矛盾があると思っている。総合治水対策という考えは、日本の河川の状況から、防ぐことが困難な場合が多いから、洪水を発生させる雨水量に対して流域全体で対応するという考えに基づいている。計画を超える洪水に対して被害を分散させているから軽減につながる。そのような治水対策をしていくべきと考える。

座 長)

「協議会の今後のあり方」につながる意見を出していただきましたが、10年目になりますので、何か一致点があればそういう方向を追求してみたらいいかと思います。協議会は、住民参加の形で作ってもらった協議会です。10年たった今、しかるべき役割を果たさなければならないと思います。河床管理の問題とか土砂流出の問題とかだしてもらっていますし、高水をどういう風にみていくかもありますし、大きな課題を抱えてなかなかすっきりはしませんが、また1年皆さんと一緒に今までのやり方を繰り返すか、10年目なので新たに意見をまとめて、協議会として提言を県に出していった方がいいのか、どうしたらいいでしょうか。

会 員)

維持管理に費用がでないというのがどうしてなのか教えてほしい。

事務局)

整備費に比べると維持管理費は確かに少ないです。砥川については改修を先行するという事でやっています。改修区間についてはできるだけ早く完成させるということを考えています。

事務局)

維持管理費については削られているわけではありません。諏訪管内全体をみると維持管理費をいれなければいけない河川が多く、アダプト等地元の協力をもらいながらやっています。そのような中で十分に行き渡らない状況があります。

座 長)

座長を命ぜられて、せっかくですので、2年の間に皆さんに意見をだしてもらって、うまくまとまれば、所長とか知事に出していきたい。提案のところでも書かれているのは、毎年こういうような事ができるんだというような費用の目安がないだろうかということをお皆さん感じていると思います。諏訪建設事務所とすれば管内の全ての状況を見ながら判断しなければならないということではですね。砥川について、河川改修は進めていく中で、完成後に、どういう維持管理をすればいいかという課題は残る。上流の土砂流出対策・河床管理・管理への住民参加のありかた(参加住民の高齢化)等がある。河川改修が終わった後

も残るような形がいいと思う。河川管理に重点をおいてこれから一年間協議会として取り組んでいったらと思いますがいかがでしょうか。

会 員)

テーマを絞るというのはいい方向だと思うが、その前に提言の検証が必要だと思う。出しっぱなしでなく、それがどのように進められてきているかとか、進めれていない部分はどのようになのかといった検証をして、テーマを絞るというやり方が次につながるやり方だと考える。

個人的には土砂の流れが気になっている。現実的に諏訪湖に土砂が流入している中でデータとして土砂量を計ったものがあるならば提示してほしい。

座 長)

土砂量について建設事務所ではどのように計っているのか。

事務局)

水については観測しているのでデータとして出せますが、土砂については、1洪水でどの位流出したかは計っていない。

座 長)

洪水の度に、何万トンとか発表していたと思いましたが。

事務局)

河口で除去した土砂量は把握できるが、流出量まではわかりません。

座 長)

維持管理の問題を力入れて勉強して、砥川の維持管理について話し合っ、大筋意見が一致する部分がでたら、提言としてまとめてみたいということで、皆さんの参加をお願いするということはいかがでしょうか？

会 員)

維持管理というテーマを決めてしまうのではなく、提言から10年ちょっとたったわけで、工事も概ね半分終わっている。提言に対して、協議会・行政がそれぞれ何をしてきたかを1度まとめて、今後どうするのか。それにあたっていろいろある意見を付記して今後完成に向けてまとめていく。今回は中間評価をするべきである。それを踏まえて次の段階に進むべきと考える。

座 長)

提言の中身を検討して、自分たちの意見をまとめるという方が合理的であると思います。提言に書いたことと現実の進行がどうなっているかということ整理・検証するというところで進める方法でどうでしょうか。

事務局)

中間評価していただくというような形で、それを今後の事業に活かしていければと思います。

砥川につきましても消防団待機水位とか危険水位とか決まっています。さらに、水位とか雨量データはインターネットで常時出ていますので、それらを見ていただいて避難の参考にして頂きたい。

河川には、環境・治水の他に利水という面がありまして、砥川に限った話しではありませんが、河川から水を取って使っているところが結構ある。そのことも考えていく中で、河川の断面が決まっていく。治水を優先して、治水に理想的な断面にしにくい面もある。水がとれるようなことも考えなければならない。環境面もある中で調整をつけて河川の実業を実施していく必要がある。総合治水対策としましても、都市化が進んでいる河川については、理想的な河川整備ができない面から、総合治水対策を進めているところもありますが、基本的に治水の面から考えると、ある程度の河道整備が必要になると思っています。その上で総合治水対策を図れるところでの対応を考えていく必要があると考えている。

座 長)

諏訪建のホームページで、雨量・水位がわかるようですね。パソコン等ある方は開いてもらえばいいと思います、これを普及するのはどうしたらいいでしょうか。こういうのが普及されていくと、必要なときに早く逃げることが普及していくかなと思います。役場の広報等に「みなさん洪水の時は、水位に関心を持ってください」とのせてもらい、こういう風に関っていくとその日の雨量とか水位がわかるから、それを参考にしてくださいとかすればせつかくの情報が生きると思いますが、広報とかでせつかくのデータを読みやすくしていただければいいかなと思います。

下諏訪町)

パソコンから諏訪建の情報を見ることができて、町のホームページからもリンクすることはできると思います。今日の話を通じて、雨量情報等をリアルタイムで見ることができるとことは皆さんあまりご存じないと思いました。広報にそういった記事を掲載して、住民の皆さんにわかりやすい情報提供ができるよう、検討していきたいと思っています。

座 長)

いろいろ意見が出ましたが、提起されたのは提言を自分たちで考え直してみようというのがクローズアップされたと思いますので、そういう方向でやってみるということをして今日の話の結びとしてよろしいでしょうか。

会 員)

流域協議会の目的は、地域住民と行政とが、地域住民の安全のため、あるいは、よりよい環境を維持するために具体的な知恵を出し合って考えて検討して進めていくことであります。今、河川改修が進行中であるわけです。また、事業を進めていく途中で我々が意見



を申し上げなければいけないことも出てくるだろうし、今後もこの会を継続して、お互いが考えたこと気付いたことを意見交換をして、行政の中でそうしたものを反映していただいて、よりよい地域作りをしていく。そのために継続して、定期的に会議を開いていただきたい。

座 長)

今、言って頂いたような方向で、流域協議会を運営していくということでいいでしょうか。また、一つ浮かび上がったテーマとして、10年前の提言について検証し、一定の方向付けができれば新たな提言をまとめていくということでまとめさせていただいていいでしょうか。

ありがとうございました。議事を終了します。

事務局)

五味座長様、進行ありがとうございます御座いました。これにて閉会いたします。

以上